

平成30年度 教育事業（普及啓発事業、看板事業）  
第9回 チャレンジカヌーツーリング（9年目）

## 1 事業概要

平成30年7月豪雨により肱川が氾濫し、カヌー研修場周辺も大きな被害を受けた。企画していたカヌーツーリングを全て実施することはできなかったが、参加者には安全に活動できる範囲でカヌーの漕艇を楽しんでいただいた。また、作製した簡易スローバッグを使用した救助訓練を行い、水辺で安全に活動するための知識や態度を身に付けることができた。

## 2 事業の目的（ねらい）

カヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、水辺で安全に活動するための知識や態度を参加者が身に付けられる講義や演習を実施し、カヌーによる体験活動の普及を後押しする。

## 3 企画・運営のポイント

カヌー実技の基礎講習会「ショート編」は、カヌーの基本的な漕艇方法を学ぶ「平水版」の他に、水辺で安全に活動するための知識や災害時に役立つ知識を学べる演習、3kmのミニツーリングを含む内容とし、カヌーを安全に楽しく学ぶことができるように構成した。また、初年度参加者には、10kmのカヌーツーリング「ロング編」を安全に実施するため、「ショート編」への参加を義務付けるようにしている。

## 4 期待される効果

短い距離のツーリングを楽しめる「ショート編」は、体力に不安をもつ参加者も申し込みやすく、より広くカヌーを通じた自然体験を普及できる。また、簡易スローバッグを作製し、実際に救助演習をツーリングに取り入れることで、より実践的な知識として、水辺で安全に活動するための知識・態度の習得が期待される。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

6 共 催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

7 後 援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会  
愛媛新聞社・NHK松山放送局

平成30年度 国立大洲青少年交流の家 教育事業  
第9回 チャレンジカヌーツーリング 体験の風をおこそう  
～挑戦のショート編～  
【ショート編】約3km (大洲市宮田～袖木) 【期日】1泊2日  
①7/17土～8日 ②7/14土～15日 ③7/21土～22日  
予備日8/4土～5日  
【参加費】会費・保険代等 (小学5・6年生)1,540円 (中学生以上)1,570円  
国立大洲青少年交流の家 ホームページからお申込みください。  
小学5・6年生の親子、中学生、高校生、一般  
\*小学生の参加は保護者同伴、中学生の参加は保護者の同意が必要です。  
～感動のロング編～  
【ロング編】約10km (大洲市八幡宮～長浜河口) 【期日】1泊2日  
9/8土～9日  
予備日10/6土～7日  
【参加費】会費・保険代等 (小学5・6年生)2,270円 (中学生以上)2,300円  
\*【ロング編】は、過去の発着便もしくは【ショート編】に参加した方が申し込みます。  
主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 〒739-0001 愛媛県大洲市長門1080 TEL: 0993(24)5176 国立大洲青少年交流の家 \*ホームページ: www.nakajima.or.jp 申し込み: www.nakajima.or.jp  
共催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会 後援(予定) 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所 愛媛県教育委員会 愛媛新聞社・NHK松山放送局

**8 期 日** 【ショート編】第1回：平成30年7月 7日（土）～ 8日（日）※中止  
 第2回：平成30年7月14日（土）～15日（日）※中止  
 第3回：平成30年7月21日（土）～22日（日）  
 予備日：平成30年8月 4日（土）～ 5日（日）

【ロング編】平成30年9月8日（土）～9日（日）

※ツーリングは予備日に延期

予備日：平成30年10月6日（土）※台風接近により中止

**9 場 所** 愛媛県大洲市肱川【ショート編】約3km【ロング編】約10km  
 国立大洲青少年交流の家（カヌー研修場を含む）

**10 対 象** 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般

**11 参加人数** 【ショート編】第1回：中 止（定員20名）

第2回：中 止（定員20名）

第3回：22名（定員20名）

予備日：23名（定員20名）

【ロング編】41名（定員50名）※ツーリングは予備日に延期

予備日：※台風接近により中止

**12 参加費** 【ショート編】小学生1, 540円 中学生以上1, 570円

【ロング編】小学生2, 270円 中学生以上2, 300円

※食事代、シーツ洗濯代、保険代等を含む

**13 講 師** 大谷 裕之氏（アウトドアインストラクター）、大洲市カヌー協会会員  
 松盛 敦氏（大洲市カヌー後援会）、国立大洲青少年交流の家職員

**14 日 程**

【ショート編】 13:00 13:30 16:30 17:30 19:30 21:00 22:30

受 付	カヌー実習 (平水版)	入所 OR	夕食 ・ 入浴	【講義】シグナル コミュニケーション 【演習】簡易スローバッグ 作製	自由時間 入浴 就寝準備	就 寝
--------	----------------	----------	---------------	---------------------------------------------	--------------------	--------

6:30

9:00

12:00

起 床	つ い	清 掃	朝 食	カヌーツーリング(3km) 柚木カヌー艇庫周辺	解散
--------	--------	--------	--------	----------------------------	----

【ロング編】 16:30 17:00 18:00 19:30 20:30 22:30

受 付	開会式 入所OR	夕食 ・ 入浴	【講義】カヌーと肱川 【講義】ロングツーリングに ついて	自由時間 入浴 就寝準備	就 寝
--------	-------------	---------------	------------------------------------	--------------------	--------

6:30

9:00 9:30

13:30 14:00

起 床	つ ど い	清 掃 食	朝 食	移 動	カヌーツーリング（10km） 八多喜祇園河原～長浜河口	昼食 清掃活動	閉 会 式	移 動
--------	-------------	-------------	--------	--------	--------------------------------	------------	-------------	--------

## 15 活動内容

### I ショート編

実習：カヌー実習（平水版）（13:30～16:30） 講師：国立大洲青少年交流の家職員

平成30年7月豪雨により肱川が氾濫し、カヌー研修場周辺も大きな被害を受けた。3回予定していた「ショート編」の第1回目、第2回目は中止として、その間、カヌー艇庫の清掃等復旧作業や、活動場所となる肱川の下見を行った。カヌー研修場周辺の安全が確認され、「ショート編」第3回目と予備日の実施に至った。

「ショート編」1日目は、カヌー研修場でのカヌー実習（平水版）を通してカヌーの基本的な操作について学ぶ演習を行った。職員からカヌーの漕ぎ方や乗り降りについて学んだ参加者は、流れの緩やかな水域で各自練習に取り組んだ。また、ライフジャケットの浮力がどの程度あるのか体験してもらうため、着用状態を確認した上で参加者に実際に浮かんでもらい、流水の中でも安全が確保できることを体験してもらった。

休憩後は、十分な漕力を身につけてもらうため、上流に向けて漕ぎ上がってもらった。橋脚との間にできた狭い水路をくぐり抜ける課題などに取り組む、参加者はそれぞれ基本を確認しながら演習に励んだ。



演習：簡易スローバッグ作製（19:30～20:30）

講義：シグナルコミュニケーション（20:30～21:00） 講師：大谷裕之氏

夜間の講座は、大谷氏を講師に招き、溺水者の救助に役立つ簡易スローバッグを作製した。これは大谷氏が考案して広めているもので、ペットボトルとPPロープ等、身近にあるもので簡単に作製できる。参加者は各自が持参したペットボトルに、冒頭で学んだ「もやい結び」や「とっくり結び」を確認しながら簡易スローバッグを完成させた。その後、ホールに移動し、救助者役と要救助者役と、それぞれ入れ替わりながら、実際に体験して使い方を身に付けた。

また、ツーリング時に使用できるハンドサインやツーリングの心構えについて大谷氏から学び、注意喚起と意欲を高める時間とした。



**実習：ミニカヌーツーリング(9:00~11:30) 講師：大洲市カヌー協会会員**

「ショート編」2日目は、3kmのミニツーリングを予定していたが、予定していたコースが災害の影響で使用できなかった。距離が短くなり瀬を下るコースもなくなったが、下見により安全が確認されたカヌー研修場から上流に上るコースを設定し実施した。

1日目のカヌー実習により、参加者は漕艇方法が身に付いており、スムーズにカヌーを操っていた。特に小学生参加者の上達は目覚ましく、意欲的に漕ぎ進む姿が印象的であった。参加者は、災害後の肱川の様子を間近に眺め、普段見慣れない景色を堪能しながら、カヌーの漕艇を楽しんでいた。カヌー研修場前の河原に到着した後、1日目に作製した簡易スローバッグを使い、それぞれに救助訓練を行った。



## II ロング編

**開会式：(17:00~18:00)**

交流の家ホールで実施した開会式では、初めに主催者である国立大洲青少年交流の家所長・眞鍋幸一があいさつを述べた。次に、大洲市長・二宮隆久氏、大洲市教育長・東山宏氏、大洲市カヌー協会理事長・島村弘幸氏にごあいさついただいた。

**講義：カヌーと肱川(19:30~20:30) 講師：松盛 敦氏**

夜間の講義は、「カヌーと肱川」と題し、高校の部活動でカヌーを指導されている松盛氏に、カヌー競技の魅力や肱川でのカヌー活動の取組について紹介していただいた。参加者は、松盛氏の紹介する写真を見ながら、楽しく講義を聴いていた。参加者全員がカヌーの経験があり、明日のツーリングについて期待を膨らませていたようである。



**実習：カヌーツーリング(9:30~13:30) 講師：国立大洲青少年交流の家職員、大洲市カヌー協会会員**

前日から大雨が続き、ダムの放流が予定されたため、ツーリングは延期とした。なお、当日、希望者には、交流の家クライミング場にて、スポーツクライミングを楽しんだ。予備日についても、台風接近により中止とした。

## 16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

\* 満足：84.4%      \* やや満足：15.6%      \* やや不満：0.0%      \* 不満：0.0%

- カヌーを通して楽しく自然にふれあうことができ、スタッフの方が丁寧に教えてくれた。
- 簡易スローバッグ作製と実習は、最近多い大規模災害の際にも役に立ちそう。
- 風を体で感じる事ができた。景色もきれいだった。流れの体験も良い経験になった。

## 17 事業の成果

肱川の中流域のおよそ3kmのミニツーリングを含む回を「ショート編」、下流域のおよそ10kmのロングツーリングを含む回を「ロング編」として参加者を募集した。「ショート編」は、参加者募集から数日で定員が埋まったことから、体力面に不安のある参加者にも気軽に申し込みができたと考えられる。カヌーの漕艇方法など基本的な内容を含み、未経験者でも楽しく活動できるようにした「ショート編」の企画実施は、カヌーを通じた自然体験活動の普及啓発という面においても効果的であったと考える。



今年度7月に起きた平成30年7月豪雨では、肱川全体が甚大な被害を受け、カヌーを含む事業は全て実施が危ぶまれた。カヌー艇庫の清掃や研修場である肱川の下見を入念に行い、安全に事業が実施できるかを職員全体で話し合った。また、カヌー実習を行う範囲や実習内容の検討を重ね、「ショート編」第3回および予備日で実施することができた。カヌーツーリングの距離が短くなり、瀬を下るコースもなくなったが、参加者が安全に研修できる範囲で事業を行い、カヌー漕艇の楽しさを味わっていただけたことは大変よかったと思う。

「ショート編」では、「水辺で安全に活動するために必要な知識・態度の習得」をテーマとして掲げた。カヌー演習やツーリングの前後に、ライフジャケット着用状態での川流れや着衣泳の体験をしたり、1日目の夜に簡易スローバッグを作製して屋内で練習し、2日目のツーリングゴール後に救助訓練を実施したりした。参加者に楽しんでもらいながら、災害や緊急時にも役立つ知識と態度を身に付けることができる内容としたことが、参加者の満足度向上につながったと考えられる。

## 18 事業の課題

「ロング編」当日は、大雨によるダムでの放流があり、予備日についても、台風の接近により10kmのツーリングは2年連続の中止となった。楽しみにしていた多くの参加予定者に残念な思いをさせた。来年度は、今年度の参加予定者に優先的に広報するなど、事業募集の方法を工夫して参加者の期待に応えたい。また、今年度は軽量のカヌーが導入されたがツーリングには不向きで使用せず、運搬の際に参加者が重たいカヌーに苦勞する様子が見られた。運搬方法については、カヌーの把手部分を持ちやすくするなど、対策を考えたい。



今後も肱川でのカヌーを使った事業を継続していくことで、カヌーを通じた自然体験活動を推進していきたい。また、肱川は非常に変化に富み、自然が豊かで、水運に活用された歴史もあり、教育資源として有効な河川である。カヌーで川を下るだけでなく、木材や木蠟の水上輸送など近現代に果たした歴史的な役割についても紹介できれば、より参加者の学びは深まると考えている。「カヌーの大洲」を謳う当交流の家の看板事業として、今後も発展的な企画の実施を検討していきたい。

(担当：主任企画指導専門職 渡邊 勝也)